Hijicho
市大新聞

2011.4.1
創刊号

はじめまして 飛耳長（ひじちょう）です

大阪市立大学 学術情報総合センター

▶ 3-4面　学情の使い方

Hijicho 市大新聞

2面　震災への支援活動

4面　Hijicho とは？

6面　特集 学情の使い方

14面 市大最大の学生団体 四者連絡協議会

8面　**インタビュー**
市大スーパーアイドル にゃんちゅう

10面　**インタビュー**
SHK × テクノ部

12面　社説　「就活を議論する上で」

東北地方太平洋沖地震の被災地に対する支援

東北地方太平洋沖地震にて被災された地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
Hijichoでは、大阪市立大学の各学生団体と連携して募金活動に広報面で協力しています。

どなたでも寄付をしていただけます

学生ボランティアスタッフが中心となって、学内外で募金を受け付けています。いただいた募金は大阪市・日本赤十字社を通じて、被災者に対する救援活動に役立てます。

Point

募金活動への参加は大学への登録を

大阪市立大学の団体が、学内外で大学の名前を用いて募金を集めるには、**大学のボランティアセンターへの登録が必要です**。
ボランティアセンターは大阪市立大学の一機関として昨年設立されました。直属の学生スタッフに加えて、登録した団体や個人が大学と連携して運営と活動をしています。

募金受付場所

学生支援課	窓口受付
地下鉄あびこ駅 ＪＲ　杉本町駅	ゲリラ的に
書類提出日 入学式	各会場で

Twitter & Contact

大阪市立大学 ボランティアセンター
06-6605-2101
http://goo.gl/OCiGj
ocu-vc@sta.osaka-cu.ac.jp
お問い合わせの際は件名に「東北地方太平洋沖地震災害救援募金について」と記入して下さい。

大学内での募金活動を考えている方々に対して、共同で活動することを提言します

各団体個別での募金活動の乱立は学内の学生や近隣住民の方々に混乱を招くと同時に、意図せずとも募金活動の信頼を傷つけることがありますから、可能な限り一元化して行いたいと考えております。募金活動をお考えの人は、可能な限り大阪市立大学ボランティアセンターを通じて活動されるようお願いします。

(編集部)

Hijicho
大阪市立大学

大阪市立大学と学生を広報し
社会を刺激するメディア団体

一緒に新聞つくらへん？

Hijicho 市大新聞

学生広報団体Hijicho とは

今の市大に足りないのは広報力。諸問題を解決し、今後とも各団体、及び個人の相互交流を促進していくためには、あらゆる情報を全学生が知って考える必要があり、代表者だけが情報を持っていてはだめだ。学生広報団体Hijichoでは是非とも市大の弱点を補いたい。

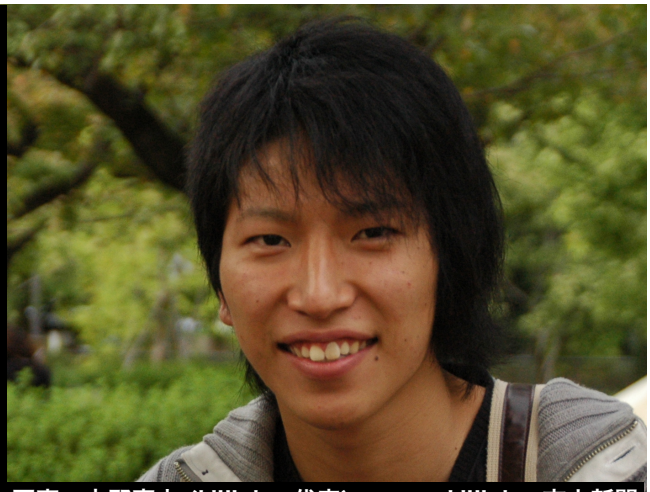


写真　中野寛之 (Hijicho 代表)　Hijicho 市大新聞

市大新聞をつくっている

ひとまず、Hijichoって何してるの？―という問いから答えようと思う。『学生広報団体Hijicho』簡単にいえば、新聞をつくっている。新聞部と思ってくれたらいい。僕を取り巻く統合的な動機から、今年設立した市大のメディア団体である。出来たてホヤホヤだ。ちなみに発音は「ひじちょ」ではない、「ひじちょう」もしくは「ひじちょー」である。最後は伸ばして元気よく素直な感じで発音していただきたい。

ひじちょう ＝ 飛耳長目 ＝ 耳を飛ばして、目を長くして、物事を見聞する

昨年の夏、燦々と降り注ぐ太陽光の下、大阪という混沌とした大都会の喧噪を離れ、僕は山口県・萩市を歩いている。旅をしながらあれこれ妄想するのが好きで、長期休暇の際はよくやっている。で、萩市といえば幕末維新の立役者の故郷の地だ。日本人ならば知っておかなければならない歴史上の人物がわんさかいる土地である。中でも吉田松陰ははずせない。松下村塾の吉田松陰。知っているでしょう？

この松陰さんを崇拝しているのがHijicho代表だ。僕だ。松下村塾には飛耳長目録という書があり、松陰さんは塾生に、情報を収集し将来の判断材料にせよと説いている。「飛耳長目」は「物事の観察に鋭敏である」という意味をもつ四字熟語である。学生広報団体「Hijicho」。団体名はここに由来している。自ら飛耳長目となって躍動する。今後の飛躍に是非注目していてほしい。ちなみに、管さん（首相）も萩市の人だ。応援しているが、いつまでもつことか。

市大に足りないのは情報宣伝力

今、大学の在り方というものが頻繁に問われる時代。就職活動の長期化であるとか、法人化に伴う諸問題などがその議論の表舞台に出てきている。そんな中、僕たちはいったい何のために大学に入ったのか。要約して“将来のため”と多くの人は答える。しかしこの“将来”とはいつのことなのか。時間という次元は連続的であり不可逆的なもの。過去から見たら、市大生である“今”も将来のはずだろう。価値観は人それぞれなので一概には言えないのだが、サークル活動というのは学生主体の活動場であり、ある意味規格化された大学生活の中において、最も自分らしさを探究できる有効的な場だと僕は思う。

市大には多種のサークルが存在する。それだけ異なる考えを持つサークル及び学生が存在するということ。しかしその数の多さゆえ全てを一人の力で把握するのには無理がある。把握できないというのはその個人にとって本来あったかもしれないチャンスを知ることができず、“今”を損していることになる。それを解決するのが相互を管理する機関だろう。四者協は互いの利害調整をする機関だけにとどまらず、相互交流を促進させる機関とし

て機能しなければならない。四者協執行部には市大生の“今”を充実させるために躍動して欲しいと思っている。――が、四者協加盟団体だけでは解決の見込みがほとんどない問題も多く存在している状況だ。例えばＢＯＸの問題や大学祭常任制度の問題などがそれである。

Hijichoで市大統一。近隣地域を繋ぎ社会を刺激する。そして出会い。

では何が足りないのか？――それは、広報力だと断言できる。諸問題を解決し、今後とも各団体、及び個人の相互交流を促進していくためには、あらゆる情報を全学生が知って考える必要があり、代表者だけが情報を持っていてはだめだ。学生広報団体Hijichoでは是非とも市大の弱点を補いたい。そして市大だけにとどまらず、近隣の地域とも関わっていく。住吉区とは特に密接に関わっていきたい。

様々な人や行事を広報するということは、取材を通じて色んな人と出会えることを意味する。広報後、その情報を知らなかった人たちにとってその知見は新たな出会いである。Hijichoは広報活動を通じて様々なコラボレーションを促している。市大生を繋ぐとはこういう意味だ。そしてなにより広報活動を行う自分自身はとてつもない人脈を得る事が出来る。これがHijichoの業務の醍醐味でもある。興味がある方は是非とも僕たちと一緒に活動しよう。

Hijichoで幸せをつかみとる

「地元愛ってのは(なぜ)どこから湧いてくるのか？」を思案しながら公園を散歩している僕。大阪市立大学が好きだ。なぜだろう。――自分の居る空間の歴史的事象の歯車の一つになれているという「気づき」から地元愛は生じるのではないだろうか？例えば市大なら、市大生は市大の歴史を創り上げる一つの要因になってると思えたなら、その空間が好きになる。そして歴史とは「かけがえのない“らしさ”」であり文化的活動の軌跡であるから、「ぼくは市大が好きです」と言えたならば、規格化されていない自分らしさを確信することになり、「幸せ」をつかみ取ることができるはずだ。

とすれば、「気づき」をサポートする機関があったらいい。その組織が学生目線の広報を専門的に行おうとしている僕たち「Hijicho」である。大阪市立大学には、熱い思いを持った学生が数え切れないほど存在する。みんなが知れば市大から社会を刺激できるはず。市大に、住吉区に、社会に、幸福をまき散らそう！

一緒に新聞つくらへん？

学生広報団体「Hijicho」では、新規部員を募集中。市大生を広報を通じて繋ぎ、知られざる市大の魅力を発掘する活動をしています。ネタ集めから新聞の編集まで一連の業務を協力して行います。取材したり、記事書いたり、編集も楽しい！新聞つくりたい方はぜひ連絡ください。編集は初めは難しいかもしれないけれど、Hijicho幹部の“加賀友基”が特によく教えてくれるから大丈夫。皆でワイワイ楽しくやっていくスタンスです。すでに上で述べているように活動を通じて色んな熱い学生とつながりをもてます。やりがい半端ないです。一緒に歴史を創っていこう！

Hijichoの活動内容

・ネタを見つける
・取材をしに行く
・自らネタをつくる
　（研究会、企画、合宿、息抜き旅行、etc）
・議論する（編集会議など）
・紙面を作成する
・Web版の作成・メンテナンスを行う
・打ち上げ♪

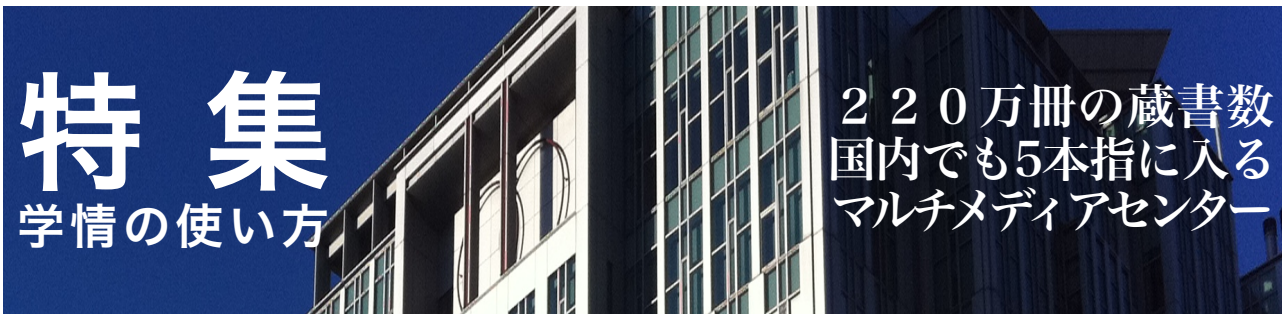
今後の新歓情報などもWebまたは、Twitterでいち早くお知らせ！もしくは直接お問い合わせを！

Twitter & Contact

学生広報団体Hijicho
Twtter　@hijicho
hijicho@gmail.com
http://hijicho.com/

Twtter
中野 @Galileogulliver
徳永 @wakuwakusann
加賀 @rapid223

(中野寛之)



杉本町キャンパスの中央に、ひと際目立つ四角いガラス張りの建物がそびえている。「学情」という略称で親しまれ、勉強、読書、その他様々な場として利用されるこの建物こそ「大阪市立大学　学術情報総合センター（以下、学情）」だ。今回、この学情を特に入学間もない新入生の方々、そして近隣住民の皆さまへ少しご紹介したい。

圧倒の蔵書数と機能性を備えた学術施設

大阪市立大学の付属図書館である学情は、外観もさることながら蔵書数、機能性においても他の大学の付属図書館を圧倒する。220万冊の蔵書数は国内でも5本指に入るほどだ。また図書の閲覧・貸しだしに限らず映像資料の閲覧ルーム、PCルーム、会議施設等が館内にあり、その名の通りマルチメディアセンターの体をなしている。

都市と共存し、開かれたスペース

ではフロアごとに順に紹介していこう。まず1階だが、エントランスホールに入ると左手に談話・ビジュアルコーナーと右手に自由学習スペースがある。談話・ビジュアルコーナーでは市大に関する映像がデジタルサイネージ（電子看板）を通して流れている。市大の雰囲気を感じていただけるかと思う。

一階エントランスホールは学生証や利用カードが無くとも出入りできるスペースであるため、誰でも気軽に立ち寄ることができる。 自由学習コーナーでは市大生の他に大学受験を控えた高校生も勉強に利用いている。 また入って右手の奥にはカフェテリアもある。値段設定は一般的なレストランと変わらないが、ミールカードが利用できるので食堂に飽きた頃に試してみてもいいだろう。

２階では本の探し方や様々な手続きに対応

学生証をゲートを通って2階に上がるとメインカウンターがある。ここで本の貸し出しや、グループ学習室の利用申し込み手続きを行うことができる。グループ学習室はサークル活動やゼミのミーティングで使用することがあるだろう。分からないことがあればカウンターで聞こう。

2階には他にも雑誌・新聞閲覧コーナーがある。ファッション雑誌や経済誌、科学誌等々数十種類の雑誌と新聞も大手数社のものが読める。少し時間が空いたときにはここで時間をつぶしてもよいだろう。

主に学部生が文献を集めるのが３・４階

学部生が主に閲覧するような本は3，4階の2フロアに納められている (3階は人文科学と自然科学、4階は社会科学) 。またフロアには500を超える席が用意されているので、勉強で利用する学生は多い。

「『学術』情報総合センター」という名称からも推測していただけるかと思うが、残念ながら最近の小説など主に娯楽などを目的とした書物は (一部の文学作品を除き) ほとんど置いていない。あくまで学問に関係している本のみが所蔵されている。その点が一般の図書館と大学の付属図書館との異なるところである。もし一般的な書物を借りて読みたい場合には、杉本キャンパスから少し離れるが大阪市立住吉図書館をお勧めする。

５階ＰＣルームはレポート作成の強い味方

5階にはパソコンルームと映像資料を鑑賞できる部屋がある。レポートの作成、情報収集、メールの送受信等々行うためにも、大学生なら一人一台はパソコンを持っていたいものだが、何らかの理由で持てない場合はここのパソコンを利用しよう。試験前の放課後はレポートを作成する学生で

あふれるため、パソコンをもっていないならば早め早めにレポートを仕上げるのいいだろう。

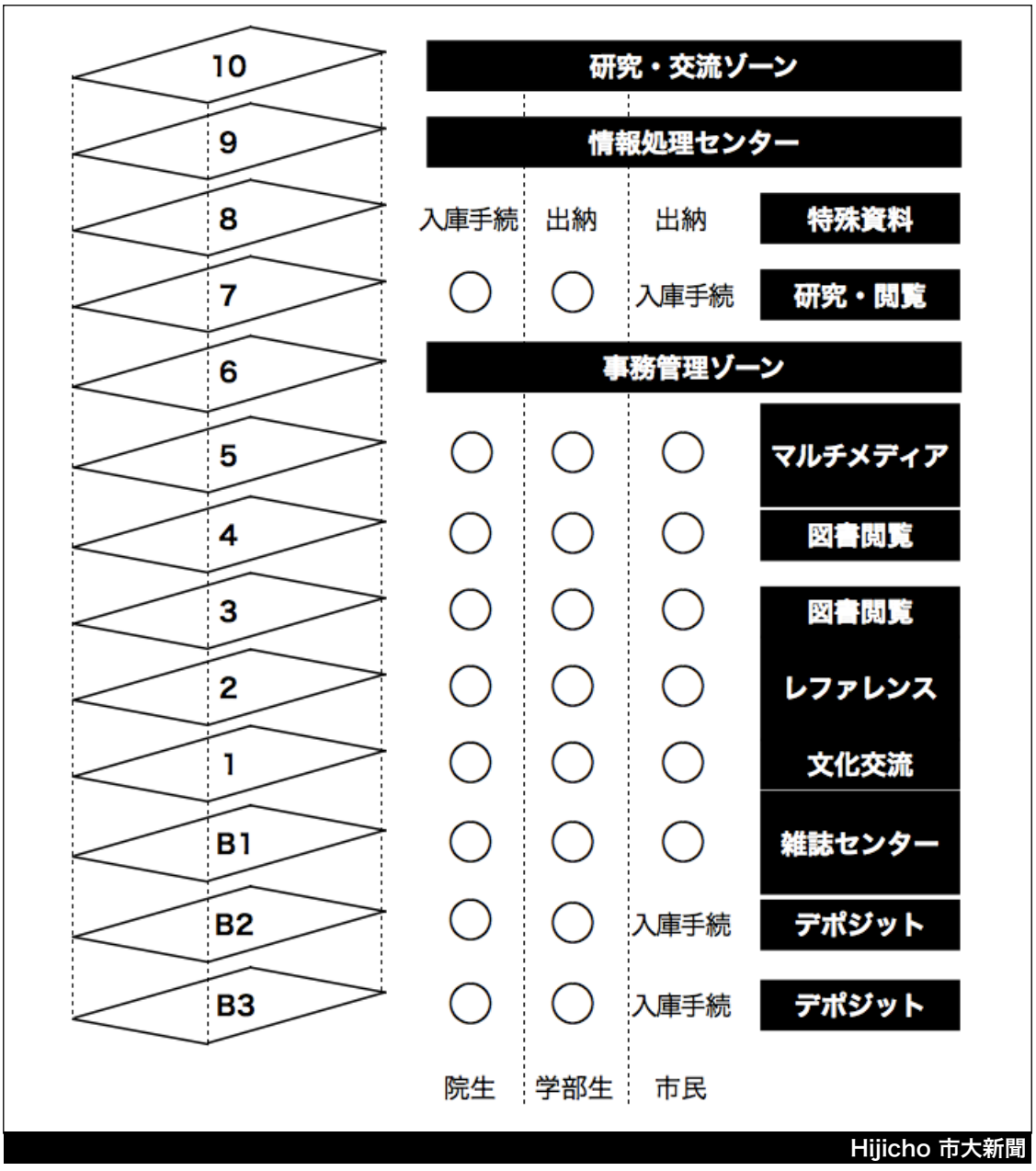
一部手続きの必要なエリアも

他にもフロアがあるが、学部生が主に利用するのは1階から5階までであろう。ここではご紹介できないが、興味があるなら他のフロアも積極利用してみるといいだろう。ただし、フロアによってはメインカウンターにて手続きを行わないと入れないところがあるため注意が必要だ。充実した大学生活を送るためにも学情を使いこなそう！

近隣住民の皆様へ

学情は大阪市立大学の学生だけが使用できるというわけでなく、大阪市内にお住いの方（又は勤められる方）であれば所定の登録を行えば誰でもご利用できます。この機会にぜひご利用されてみてはどうでしょうか。利用登録はセンター内2階のメインカウンターにて、利用資格が確認できるもの（住民票、社員証等）をご提示の上、登録費用2,000円をお支払いください。1回の登録と更新につき2年間の利用が可能となります。詳しくは、大阪市立大学ライブラリーサービス、またはインターネットにて「大阪市立大学　学術情報総合センター」を検索の上、ご参照ください。

(徳永一雄)



みなさんは、大阪市立大学の二人組アイドルユニット「にゃんちゅう」を知っていますか？はじめて耳にするという方も多いかと思います。しかしこういった、あまり知られず影に隠れてしまうかもしれない市大の逸材を Hijicho は見逃しません。2011年3月22日 (火) 、「大阪市立大学スーパーアイドル “にゃんちゅう”」のお二方 (あわねにゃんちゅうさん (写真左) ＆かなえにゃんちゅうさん) にお話しを聞くことができました。

Q) 自己紹介お願いします。

あわねにゃんちゅう「Hijicho市大新聞の読者のみなさんこんにちは。にゃんちゅうのあわねです。にゃんちゅうは去年の９月に結成されました。元々踊ったりするのが好きで、語学の授業の時に意気投合して結成しちゃいました。」

かなえにゃんちゅう「みなさんこんにちは。にゃんちゅうのかなえです。これまでクリスマスライブやゲリラライブをしてきました。DVDも作りましたよ。今後は握手会とかできたらいいな。」

Q) “にゃんちゅう” の由来は？

かなえにゃんちゅう「NHKのにゃんちゅうを知ってますか？ あのにゃんちゅうです。一人称が“ミー“だったり、いろいろ気持ち悪いけど堂々としてて、そんなところがかっこいいなと思って（笑）」

Q) 今後の目標や夢は？

あわねにゃんちゅう「目標はとりあえずテレビに出ることかな。」

かなえにゃんちゅう「夢は・・・パヒュームみたいな感じ。AKBは、ちょっとちゃうよな？人数多すぎるとバス移動とか大変やし。」

あわねにゃんちゅう「そんなとこまで考えてんねや（笑）」

かなえにゃんちゅう「そうよ。小学校の頃からアイドルになりたかった。」

あわねにゃんちゅう「でもAKBの高橋みなみイイよな。普通の子やったのにキャプテンやし、さばさばしてて芸人みたいなおもしろさもあるし。」

かなえにゃんちゅう「私は、スケートのキム・ヨナ選手を尊敬してる。常に完璧をめざしてて、努力を怠らないところ。表情に自信が満ち溢れてる。私は疲れた時キム・ヨナの動画をyoutubeで見てる。」

あわねにゃんちゅう「そうなんや（笑）」

Q) 市大生にメッセージをお願いします！

かなえにゃんちゅう「どこでも会いにいくよ！苦しいとき、悲しいとき、いつでも“にゃんちゅう”が市大にいるってことを思い出してください。いつでも何度だって会いに行きます！＾＾」

あわねにゃんちゅう「かなえ、全部言いやがって（笑）」

from Editor

にゃんちゅうの二人は本当に仲が良いみたいです。取材中も常にキャピキャピしてました。

今回思ったことは、大阪市立大学で“にゃんちゅう”ほど純粋に夢を追いかけている学生はなかなかいないのではないか？という事です。小学校のころからアイドルになりたいという思いを持ち続けて、今しっかりとアクションを起こしているのです。“自分のやりたいこと“で迷走する大学生が多い中、にゃんちゅうの２人の真っ直ぐな思いは、真意に僕の心に響きました。

「いつでも、何度だって会いにいく」という力強いメッセージは、本当に心がこもっていて愛があるなと感じました。これは僕の解釈なのですが、「人は辛いとき慰めてもらいたい。でも１度で全てを解決してあげるようなエールは送れないかもしれない。それでも、何度だって応援するよ。何度だってエールを送るよ。何度だって付き合うから。」こんな“優しさ”を、にゃんちゅうの２人は伝えてくれました。

to be continued

2011年3月27日 (日) 大阪我孫子周辺で開催される「すみよし博覧会」で彼女らはパフォーマンスを行います。次号でこの日のステージの模様を紹介します。

Twitter & Contact

かなえにゃんちゅう　@humoyona
あわねにゃんちゅう　@kimuja001
公式サイト　http://ntsd777.web.fc2.com/

(中野寛之)

SHKとテクノ部がコラボショーを開催

3月17日、杉本キャンパスでSHK市大放送研究会 (以下、SHK) とテクノ部のコラボショーが開催された。当日は朝8時半から準備。記者はリハーサル前の12時頃お邪魔した。

Hijicho 市大新聞

「有志を募ってポンポンとアイデアを挙げていったら卒業するみなさんが同調してきてくれて。」

SHK会長の清里さんはこう話す。1年前にもSHKとテクノ部は屋内でコラボショーを開催。卒業するメンバー3人が中心となり、屋外での開催に至った。彼ら3人 (泉さん＝SHK、常見さん＝SHK、長尾さん＝SHK・テクノ部) にお話を伺った。

Q) 4月には新入生がやってきます。どこに魅力を感じて欲しいですか。

泉さん「SHKの活動の幅に魅力を感じて欲しいです。こうやってコラボ企画もするけど、普段は大学祭などのイベントで司会進行したり、舞台をするサークルに機材を提供したり、映像作品や音声作品を作ったり。きっと興味のもてる分野が見つかるはずです。」

常見さん「好きな作品を好きなように作れることが魅力です。放送系の大学には劣るけど、ちゃんと機材もそろっていますし、週○回来いという縛りも特にないので気楽にできます。学部の成績優秀者も輩出していますよ。」

長尾さん「テクノ部は音楽系サークルですが、音楽をやったことがない人でも歓迎です。また音楽をやったことがある人でも、ジャンルは問わないです。パソコンで音楽を作ったり、いじったり、気楽に活動をしています。」

Q) 4年間部に在籍して楽しかったことを教えてください。

泉さん「イベント系が楽しかったです。特に毎年12月に開催される放送祭。自分の作りたい作品が作れて、それをみんなに見てもらえる機会です。音声だけのラジオドラマを制作したり、ＰＶやバラエティ番組も制作しています。」

長尾さん「自分の好きなように自由に活動できたことです。部には気楽な空気が漂っています。のびのびできたことがよかったです。」

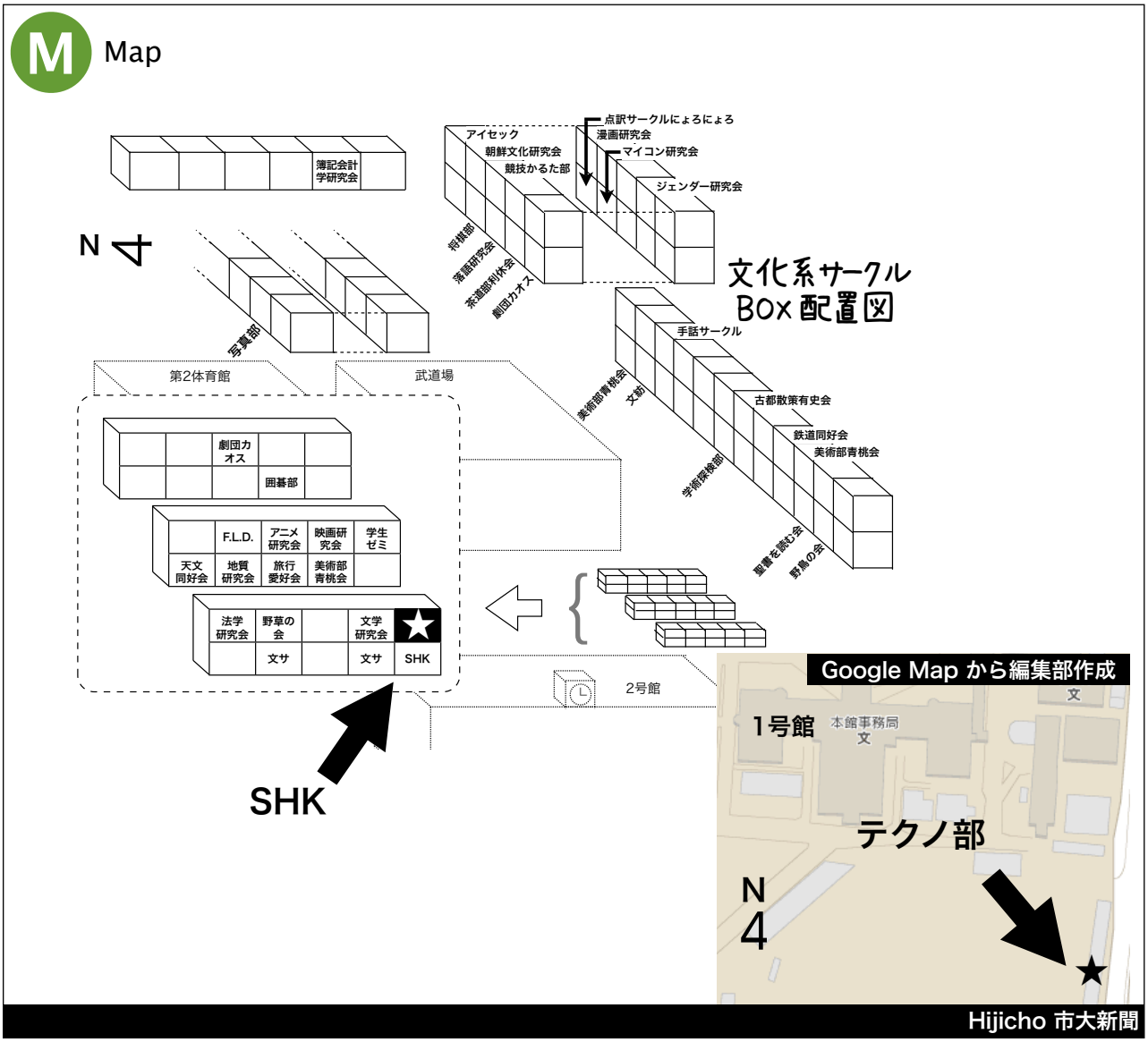
常見さん「合宿でみんなでわいわいしたことが楽しかったです。気楽で好きなことができる上に部室が快適。居心地はいいです。」

(加賀友基)

from Editor

キーワードは「気楽」「好きなことができる」のようだ。今後の大会や発表の舞台で新入生と共に活躍されることだろう。

Map



Hijicho × 井坂直矢

社　説

「就活を議論する上で」

昨今、巷では「就職が厳しい」と騒がれています。この記事を読んでいる皆さんも、何らかの不安を抱えておられるのではないでしょうか。私は、「厳しい」ということは事実だと思います。しかし、その責任が誰にあるのかという点についての世間の議論は、多くの場合的外れだと感じています。この記事では、二つのよくある議論についてお話します。

(1) 大学生は大企業を狙いすぎ？情報収集不足？

これは、大学生が有名企業に固執するあまり自分たちで勝手に競争率を無意味に上げている（から企業・政府・大学は悪くない）という主張です。肝心な主張は取材対象の人物が話していますが、まるで「学生は中学生レベルの知識しか持たずに就活に臨んでいるから、就活がうまくいかないのだ」と言っているようです。

しかし、この言説は就活をしている私の知人にはことごとく否定されています。彼らいわく「中小の説明会も満員御礼だから、その意見はでたらめだ。」だそうです。

また、そもそも「求人倍率」という求職者と求人数の二つの数字しか見ていないのに学生の行動を説明できるとは私は思いません。少なくとも、中小企業には大量採用・大量離職が前提となっているブラック企業や、ブラックではないにしても先行きが不安な企業などは素人目に見ても多くあります。それらの存在に触れずに「中小企業の求人は○○万人です。沢山ありますね。」と言ったところで、その数字に意味があるのでしょうか。

学生たちは、私の知る限りでは必死で情報収集をしていますし、中小企業のことは何も知らない、なんてことはありません。現に有望株だと思われる中小企業の説明会には学生が殺到して、過酷な競争状態になっています。むしろ多くの学生が情報収集をしているからこそ、そういった状態になっているのではないでしょうか。

新卒雇用状況は「超氷河期」といわれる。今春卒業予定の大学生の就職内定率（昨年12月）は過去最低の68.8％を記録。「氷河期」だった1999年（74.5％）を下回ったからだ。

しかし求人が底をついたわけではない。

今春の大卒求人倍率は、従業員1000人以上の大手企業が0.57倍。中小企業は2.16倍にのぼる。氷河期は大企業0.49倍、中小は1.55倍にとどまっていた。

関西大の会社説明会には、大手企業が軒並み参加。食品大手の江崎グリコやカルビーの会場には300人を超える学生が詰めかけた。

その一方で世界市場占有率1位のガラスやタイヤメーカーは閑古鳥が鳴いた。

関西大キャリアセンター事務長の丸山勝茂は苦り切って言う。「学生は中学生でも知っているような親しみやすい企業にしか興味を示さない。世界的な企業ですらこんな状態。ましてや中小企業のことは何も知らない」

そして続けた。「『焦っている』といいながら危機感が薄い。そんな学生たちが自らミスマッチを招き、今の就職難を生んでいる」（増田弘治ほか，2011a）

参考文献 [1] 増田弘治・矢沢慎一，2011a「学生が招くミスマッチ」『読売新聞』3月2日付朝刊 [2] 増田弘治・矢沢慎一，2011b「外国人学生もライバル」『読売新聞』3月3日付朝刊

(2) 大学生は意欲がない？最近の若者は頼りない？それに比べて外国人学生は優秀？

東京・品川のソニー本社。市場開発・販売促進部門の社員教育を統括するのはロイ・ホワイト。英国人だ。むろん日本語はできない。昨年末に欧州法人から抜てきされて来日、人事部長職についた。

……「足元を確かめると世界的な人事異動などグローバル化が立ち遅れていたのは本社だった」と気づき、ホワイトを据えたのだった。

新卒採用も2013年には外国人枠を現在の14%から30%に引き上げる。

「今年は外国人採用元年」。企業の人事担当者は口をそろえる。

国内市場が主な文具・事務機器大手のコクヨも今年の採用で初めて外国人枠を設けた。……バングラデシュ人学生を採用。来年以降枠を拡大する予定だ。

「とにかくよく勉強し、優秀だ。『母国の未来を背負っている』という気概にもあふれている」。人材開発部、片山一志が語る。

……いまや就職のライバルは日本人だけではない。激しいグローバル化の波が押し寄せるなか、したたかに世界を相手に戦える人材を育て上げようとする企業もある。

……企業はどんな視点で学生を見極めるのか――。

ソニーのグローバル人材開発部門長、岸本治は「自ら発想し、考える力。やり遂げた、やり抜いた、という成功体験」と強調する。

そんな能力、経験があれば「洋の東西」は問われない。（増田弘治ほか 2011b）

この記事は、「外国人学生も競争相手になったし、（彼らと戦えるほどの人材になってないんだから）日本人学生の就活が厳しいのも仕方ない（し、それは企業・政府・大学の責任ではない）。」と言っているように私には聞こえます。

このニュースから我々が議論しなければならないことは、「なぜ外国人学生とここまでの差がついたか」ということです。企業が優秀な学生を欲しがるのは当然のことですが、国家には子供・若者を育てる責任がありますから、日本人学生が外国人学生に「能力、経験」で負けているならば、その責任の所在は教育に責任をもつ国家や大学に求めるのが当たり前であって、学生に求めるのは筋違いだと私は思います。

ゆとり教育の問題で子供に責任を求める議論はほとんどありませんでしたが、就活の問題では学生の責任を追求する世論がじわじわと拡大しています。その理由は「学生は遊んでばかりである」という負の印象を大衆が持ち続けているからだと私は考えています。「一気飲みで死亡」などのニュースが新聞に踊る中で、その疑念はますます高まるばかりです。

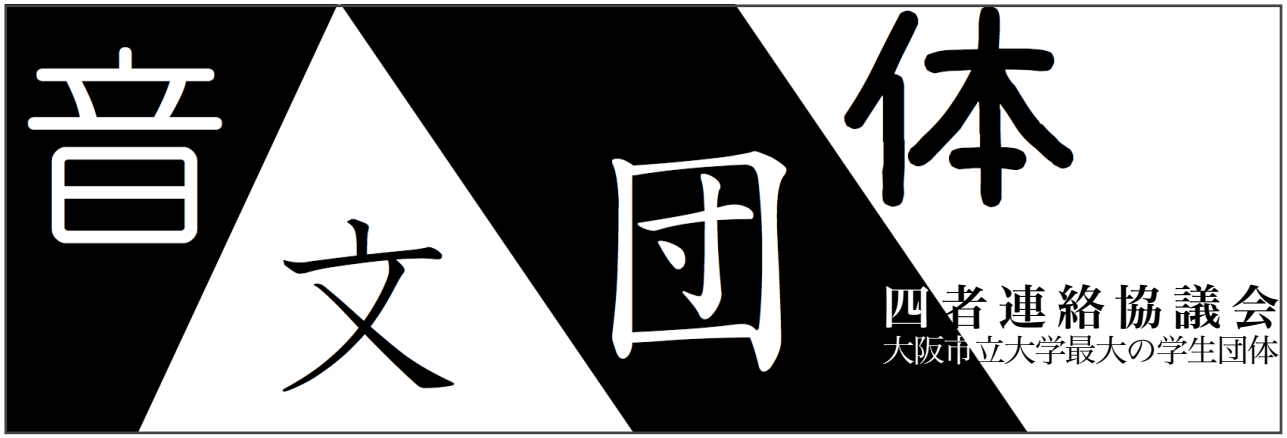
確かに遊び呆けている学生もいます。しかし、全体としては学生はむしろ年々授業への出席率を上昇させて、一定数はさらに資格取得などのなんらかの学外での勉強にも手を出しています。大学生は確実に真面目になっていて、それでも企業にとって彼らが「能力、経験不足」だとしたら、それは学生の責任と言えるのでしょうか。

こういうと「何でも社会のせいにするとは、主体性が足りない。だから就活に苦戦するのだ」とか言われそうですね。しかし、主体性云々の能力が就活をする学生に必要であると仮定しても、一般の事情として、日本の教育制度の話として、大学生平均として、就活をするのが難しい能力の水準にあるということは、これは国家・大学の責任だと私は考えます。

(井坂直矢)

Twitter & Contact

井坂直矢
法学部4回生, 部落問題研究会代表
Twitter　@naonin360u



今の市大に足りないのは広報力。諸問題を解決し、今後とも各団体、及び個人の相互交流を促進していくためには、あらゆる情報を全学生が知って考える必要があり、代表者だけが情報を持っていてはだめだ。学生広報団体Hijichoでは是非とも市大の弱点を補いたい。

応援団は大阪市立大学を背負っている

２０１１年３月１２日（土曜日）１８：００、難波の味園という宴会場で、大阪市立大学応援団第４８代団員の卒団式が行われた。僕も昨年度は応援団には非常にお世話になっているのでその場に出席させてもらったわけだ。味園に到着すると係の方に本会場の個室まで案内された。そこには、応援団の皆様とそのOBさんの方々が着席している。そして体育会本部、文化系サークル連合、音楽系サークル協議会、大学祭実行委員会、など市大内に存在する各自治体の幹部たちもこの式典に招待されている。しばらくして定刻となりセレモニーがはじまる。

しかしながら気を確かにもつことはなかなか容易なことではない。ご存じの通り、前日１１日（金曜日）東北地方沿岸沖で大地震が発生し、もはや日本全国で絶望、落胆、不安、慌ただしく日本全土が沸き起こっている時である。ましてや前日。ただ事ではない。卒団式会場も“こんな時に宴会をしていてよいのか”という雰囲気が少なからず漂っている。が、式典のプログラムは進行する。応援団幹部交代はすでに終えているので新たな第４９代団長（遠藤諒人）の挨拶からはじまり、各自治体の代表者も挨拶をしていく。――心から卒団おめでとうございますと思った。ありがとうございました。と思った。だが同時に震災のことが頭を離れることはない。皆そうだろう。プログラムは進む。

現幹部たちの挨拶から少し時間をおいて卒団される第４８代応援団幹部の方々が順番に挨拶をしていく。自身が当時１回生だった頃を回想しつつ４年間の想い出を感慨深く語ってくださった。最後は４８代団長の中川浩志さんの挨拶である。団長の挨拶はとても心に響くものだった。『私が応援団に入団したのは新歓でもてなされたからではなく、先輩方の人間的な魅力にひかれたからである。だから、新入生の歓迎は作戦を練るよりも、自分自身をもっと磨くことだ。人間的魅力が高ければ新入生はおのずと入ってくれる。いつもやれる最大の応援は、自分を磨くこと、自分の性分を全うすることだ。』いつも、どんなときでもやれる応援は自分自身を磨くこと、自分の性分を全うすること。この瞬間、会場の空気は変わった。さすが団長だ…と僕も思った。今するべきことを真摯にやったらいい。ボランティアをする団体はボランティアを、勉強する人は勉強を、応援団は応援を、その行為はめぐりめぐって多くの人たちに影響を与える。今は卒団式だ、会場全体のみんなで心から笑い、感謝し、感謝され、そんな素敵な空間を楽しまなくては。そんなことを浩志さんは言いたかったんだと僕は感じた。東日本ではいま大変なことになっているけれども、せめて関西にいる僕たちは心を強く持ちたいものである。――応援団は大阪市立大学を背負っている。その大阪市立大学には存在する最大規模の学生団体“四者連絡協議会”がある。応援団はこの四者連絡協議会の一角なのだ。

四者協＝加盟団体に所属する全ての学生

応援団の応援と言えば野球やラグビーなど体育会系のクラブの応援をイメージしてしまうが、体育会系のクラブだけでなく文化系サークルや音楽系サークルの発表会等にも駆け付けてくれている。さらに“応援”だけではなく、新歓、大学祭、ボート祭、三商大戦など、市大で行われる様々な“企画”にもスタッフを派遣してイベント作りにも関わっている。しかしこれら様々な企画はもちろん応援団だけで運営しているわけではない。大阪市立大学には様々なクラブやサークルが存在するが、カテゴリ別に「体育会」「音楽系サークル協議会」「文化系サークル連合」という自治体が存在し、この３つの自治体と「応援団」を合わせて「四者連絡協議会」（略して四者協）とよんでいる。ここで注意すべきは、各自治体の幹部たちが四者協というわけではなく、上記各自治体に加盟している部員は全員四者協の一員である、という点である。そして四者協を構成する各自治体から四者協をとりまとめるために選出されたのが四者協執行部であり、この執行部が一丸となって諸所の運営にあたっている。高校までの生徒会のようなもの、と表現すればわかりやすいだろうか。

大学側との折衝権をもつ唯一の学生団体

読者の中には「なぜ異なる活動をしている4つの団体が一つにまとまって行動する必要があるのか？それぞれの活動だけでよいのではないのか？」と思われる方もいるかもしれない。四者協がまとまって行動することの最大のメリットは、「多くの団体が集まることで、様々な問題を解決できる」ことにあるのだ。クラブ・サークル活動等の自治活動においては、個々の団体の扱う範囲を越えて、多くの団体が関係してくる問題がよくある。例えば大学からのサークル活動援助予算、新歓期の勧誘活動、サークルへのBOX割り当て問題等がそれにあたる。これらの問題は個々のクラブ・サークルの枠を越えているため、みんなで話し合って方針を作ってゆく必要がある。よって、四者協では総会で大きな方針を確認しつつ、個々の問題についてはそのつど各クラブ・サークルから代表者が集まって意見調整会議で協議している。そこで各サークルから出された意見によって、四者協は運営されている。そして、問題によっては各クラブ・サークルで協議したことをもとに、大学側に要望を出して交渉してゆくこともある。その時も「多くの団体の意見が集まっている」ということが非常に重要で、特に予算については毎年個別のクラブ・サークル単位ではなく、四者協全体として要求し続けてきた結果、現在の額に達しているのである。このように四者連絡協議会は大学側との折衝権をもつ唯一の学生団体である。例えば「学費高すぎるから下げて」「学情２４時間開けて、日曜も開けて」「踏み切りいらない」など、ひとつのサークルでは相手にしてもらえないが、四者協ならば公式に交渉の場を整えられるということである。

単なるクレーマーにならないで

四者協執行部は執行部会議を頻繁に行い、全団体の代表が集う四者協総会や意見調整会議をもってして四者協の意思決定の最高機関としている。執行部会議はおよそ週に１回のペースで行われているが、新歓期などイベントが集中して忙しい時はほぼ毎日大学に来て会議を行っている。３月は特に忙しい。読者の中には意見調整会議に出席しているクラブやサークルの代表の方もおられることであろう。最近では3月17日に８１１教室で意見調整会議が行われた。議題はもっぱら新歓イベントである。つい最近も前期入学手続き日（3月15日）に１号館側キャンパスに多くのクラブ・サークルがブースを出し、新入生を相手に様々な形で勧誘活動を行っている。しかしこの日というのは言わば新入生の取り合い、戦争である。華やかな新歓日の裏では、四者協執行部の当日までの陳情処理などの影の努力があることを僕たちは知っておかなければならない。こうしたイベントが当たり前に行うことができているということに、まず感謝をするべきであろう。「そんなこと聞いてないですよ！」「運営者しっかりしろよ」などという単なるクレームは、発言するのは構わないが、それに対する改善案や代替案を一緒に考えてほしい。執行部は皆の代表として皆の利害の調整を行い、大学側に学生の意見を届けてくれている。その行為がスムーズに行えるように我々は執行部に文句を言うのではなく、共に悩み共に改善案を考えていく必要がある。四者協とは執行部の4人だけではないのだ

から。大学と対峙することはありえても、四者協はあなたたちであり、仲間であるという点を勘違いしてはいけない。

およそ60の団体が参加！【4/7＆4/12】クラブ・サークル合同説明会

新入生にとってこの時期のサークル選びは、その後の大学生活の行く末を方針づける重要な時である。もちろん既存のサークルに入らず、己の道を突き進むのもよい。学外の学生団体を覗くのもよし、学外のボランティア活動に励むのもよし、夢に向かって勉学に励むのもいい。バイトに明け暮れるのも青春。――が、僕は大阪市立大学に存在するクラブ・サークルをお勧めしたい。なぜか？大阪市立大学のことを好きになってほしいからである。卒業する際に、いい大学だったなと思ってほしいからだ。この大学に入学できたことを誇りに思い、大きな充実感をもつには、自身が属する空間の文化的素養である歴史を構築していく歯車の一つに自身が貢献できたことを実感することだ。あなたが属している空間は大阪市立大学である。それならば、大阪市立大学の歴史を構築する歯車になることだ。これは地元愛である。故郷が、はたまた日本が好きなのは自分がそこで育ってきたからである。同様に大阪市立大学の名の下で大学生活を謳歌することで誇りが芽生える。これに勝る青春はない。そしてそのためにはクラブ活動・サークル活動が最も適している、と僕は思う。

(中野寛之)

from Editor

この合同新歓イベントは、従来の各団体が新入生を引っ張ってくるものと違い、新入生が各団体の元へ足を運ぶという点で革新的だ。

この試みは四者協にとっても初めての試みだ。当日参加する団体の学生は、四者協執行部を含め互いに助け合って、是非このイベントを成功させてほしい。

我々 Hijicho も当日参加する。

Twitter & Contact

学生広報団体Hijicho
Twtter　@hijicho
hijicho@gmail.com
http://hijicho.com/

四者協主催クラブ・サークル合同説明会

4月7日・12日　16:30～18:30

スクリーン発表教室　　810教室～811教室
ブース発表教室　　83A教室～83H教室

スクリーン発表教室では、プレゼンテーションには40～50の団体が各10分程度で参加予定。
ブース発表教室はそれ以上が参加。
新入生は途中入退出が可能で、どの団体が何時から始まるのかを載せたプリントが予め用意される。